ブラッセル日本人学校補習校　学校だより　№23　2026年11月12日　文責：校長　中川健志



ベゴニア

～「わかった」「できた」「来てよかった」の思いがあふれる補習校

新幹線に学ぶ「成長」のひみつ　ー後期始業式での校長講話よりー



いよいよ後期の授業がはじまりました。始業式では「新幹線」をテーマに話をしました。



1964年の開業以来、新幹線では衝突や脱線などの列車の事故で乗客が亡くなったことは一度もありません。時速300km以上で走る列車でありながら、なぜ、これほど安全に走り続けられるのか？ 私なりに調べ、分析したことを子どもたちに話しました。

1つめは「見えないところで努力していること」です。乗客のいない夜間に線路や車両の点検・整備などが毎日続けられています。これは、私たちにはなかなか見えないところです。

2つめは「ルールと時間を守ること」です。ATC（自動列車制御装置）というシステムでスピードを確実に管理し、決められたルールと時間を守って運行しています。

3つめは、「失敗と経験から学ぶ」ことです。これまでのトラブルや災害の経験を活かし、改良を重ね続けてきました。

これら3つのことは、補習校の学校生活にもつながってくると考えます。宿題やおうちでの勉強は「見えないところでの努力」です。ルールや時間を守ることは、学校での安全や仲間同士の信頼関係につながります。そして、失敗と経験から学ぶことで、自分をアップデートしていくことができます。

後期は、1年のまとめと次の学年への準備をする大切な期間です。子どもたちが、補習校でも家庭でも、やるべきことを確実に進め、さらに成長していくことを期待しています。

コンパスをうまく活用しよう　ー小学部3年の算数科「円と球」の学習よりー

小学部3年生の算数科では「円と球」の学習に取り組んでいます。

先日の授業で子どもたちは、円の「中心」「半径」「直径」などの言葉を使い、その意味を確認しながら、コンパスを手に、大きさのちがう円をいくつも描いたり、円を組み合わせて模様を描いたりしました。針がずれないように中心をしっかり押さえ、つまみを持って回します。はじめは線がうまくつながらなかった子も、くり返すうちにコツをつかみ、きれいな円が描けるようになってきました。





実際に道具を使って図を描き、手を動かしながら形の性質を確かめていくのは、日本の算数の大きな特色です。また、日本の算数は学年をこえて学習が積み上がるように組み立てられています。今回学んだ「半径」や「直径」は、5年生の「円周」、6年生の「円の面積」、そして中学校の作図へとつながっていきます。

補習校は、「学習指導要領に準拠した国語及び算数・数学の基礎学力を培う」ことを目標に掲げ、日本の教科書を使い、日本語で学ぶ学校です。算数科においても「中心」「半径」といった言葉を日本語で理解し、自分の考えを日本語で説明することは、言葉の力を育てることにもつながると考えています。

今後の予定



HP 上は非公開

【第2回補習校漢字検定の受験者のみなさんへ】

〇/〇実施予定の第2回補習校漢字検定について、下記のとおりお知らせします。

〇日時：〇月〇日（〇）〇:〇〇～〇〇:〇〇

〇場所：**本校3階合同教室（中2と中3の間の教室）**

※受験者は同場所での昼食可

〇持ち物：筆記用具、水筒等

